

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属金剛幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した

学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上をめざすとともに、地域の幼稚園としての役割と使命を持つ。
 - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ②地域連携や近隣小学校との連携を図り、子どもの繋がりを大切にする。
 - ③研修の参加や年度末に自己評価をおこなうなど教員の資質の向上を目指す。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ①園児の健康観察及び予防に努める
 - ②園全体における感染症対策の徹底
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
 - ・おやこ教室のPRに努め、開催日程や内容を地域に発信する
 - ・園庭開放に来た保護者への相談や支援を行う

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	毎日、その日の出来事や子どものこと、気になったことを話し合い、より良い方法を考え実践できるようにした。
②研修や自己評価による 教員の資質向上	A	園外の研修に参加したり、附属各4園ごとに研究発表を行い、学びの機会を多く作った。 また年度末に自己評価を行い保育を振り返ることができた。
2 ①園児の健康観察	A	登園時に健康観察を実施し、保育中に体調の変化が見られた時には、保護者に連絡したり、降園時に伝えたりしている。
②感染症対策	A	・新型コロナウイルスの2類から5類への移行に合わせた対応 ・手洗いの推奨と職員室、保育室などに消毒液の設置 ・清掃の方による階段の手すり、扉等の随時消毒 ・定期的な遊具や玩具、机、いすなどの消毒
③安全対策	B	月に1回の避難訓練を実施した。 常駐の警備員設置。業者による総合遊具の点検を行った。
3 地域との連携と 子育て支援の充実	B	未就園児対象のおやこ教室・園庭開放を開催し、参加者と園児・保育者との交流もできるようにした。 HPでおやこ教室の様子を掲載し、地域の情報通信や市政だよりでおやこ教室・園庭開放の周知を行った。 申し込みQRコードを作成し、より参加しやすくなるよう努めた。 地域の交流会や会議に参加し情報交換に努めた。 また、地域のイベントで製作物の展示に参加している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・新型コロナウイルス2類から5類への移行になる中、必要な感染対策は継続して行い、健康観察や感染症対策に努めた。 ・保育計画、活動内容を見直し、バランスの良い充実したカリキュラムを考える。 ・本園は保護者が直接送迎するので、教員と保護者が話をしやすい環境にある特色を活かし、登降園時に園児の様子を保護者に伝えるよう心がけ、保護者の安心につながるよう努めた。 ・クラスだよりを発行してクラスの様子を具体的に知らせたり、ホームページでは写真を掲載して行事や園生活の様子を知らせたりするようにした。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	- 毎月避難訓練を行っているが、緊急時における対処方法を教職員全員がさらに実施できるよう、共通認識を持つ努力をする。 - AEDの講習を教員全員で受けたが今後も定期的に確認する。 - 園全体の環境整備を確認し、安全における意識を高めていく。
保護者同士の交流	車での送迎も多く、保護者同士の交流があまり持てない為、園庭開放をできる範囲で行った。今後は保護者同士の交流の場を計画していきたい。
子育て支援の充実	未就園児教室や園庭開放、見学会などの計画、周知時期や申し込み方法の改善を行い、園に足を運びやすいようにしていきたい。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 年長児と年少児の関係性について、助け合う姿に縦のつながりの大切さを改めて実感した。
- 保護者の会は、保護者同士や子ども達との園での交流にも繋がるため、可能な範囲でできていくと良いと思う。
- 擦り傷などの些細なことでも報告してくれるので安心できる。
- お掃除の方の清掃が行き届いていて、園がとても綺麗で、園庭には芝生があり、素敵な環境だと改めて思った。
- 通園バスが無いことはマイナスになることもあるが、園の先生とたくさん交流を持てるのが良いと思う。
- 小学校の運動会での踊りを見ると、金剛幼稚園の卒園児はとても良く踊る事ができており、園でしっかりと力をつけていることが感じられる。
- 預かり保育が無いことに関して、働いている親は大変との声もある。
- 実習への理解や指導のお陰で先生になりたいという学生も増えていることもあり、自己評価項目に「学生指導」という項目をいれても良いかもしれない。
- 安全面について、危機管理マニュアルも細かく色々対応出来るようになっていてとても良いと思う。
- 教員の資質向上のためには、職員室で子ども達のことを話す事、何でも話せる環境が大切なので、これからも続けると良いと思う。

7. 公開保育について

実施日時	令和5年11月13日（月） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属金剛幼稚園 保育室
保育者	もも2組（年少）担当教諭
テーマ	自然物を使ってあそぶ、体で感じる
指導助言者	大阪芸術大学芸術学部 初等芸術教育学科 教授
参加者	大阪府認定こども園・幼稚園園長、副園長、主任、教諭、富田林市職員、育友会会長
総評	先生が全体を落ち着いて見ていて、一人ずつ名前を呼んで褒めていたので、自分が褒められているということがよくわかると思います。1時間の活動でしたが退屈する感じもなく、子どもたちがみんな一緒に自由にのびのび活動していました。話をしっかりと聞くことができている、先生と子ども達の信頼関係ができていると感じました。「宝物を探しに行こう」と子どもたちがわくわくするような話をして、子ども達の発想を大事にし、やりたい気持ちや作ってみたい気持ちが持てるように工夫されているのがわかりました。